

ラウンダーズに関する研究資料

榎 本 雅 之
岡 山 愛 里
進 藤 美 玖

1. はじめに

アイルランドで最大のスポーツ組織である GAA (Gaelic Athletic Association) は、ハーリングやゲーリックフットボールといった代表的な民族スポーツ以外にも、ハンドボールやラウンダーズといった伝統的な娯楽の普及活動を行っている。筆者は、アイルランドでラウンダーズを見た際、それがソフトボールに非常によく似た競技であると感じた。元々、このラウンダーズはアイルランドだけでなく、イギリスでも古くからプレーされている。管見したところ、日本国内でラウンダーズが行われている場所はなく、そのルールも紹介されていない。

明治政府が誕生して以降、近代化が進む日本に、余暇としてのスポーツが数多く西欧諸国から来た人々や他国に留学した日本人によって持ちこまれた。その最も代表的なスポーツがベースボール¹であり、今日、「野球」として日本独自の展開をなし、少年野球からプロ野球まで各年代、様々なレベルに応じて行われ、我々の生活の至る所で目にすることができる。

ところで、ラウンダーズとベースボールは、共にボールとバット、ベースを用い、2チームが攻守を交代しながら得点を競う、いわゆる「ベースボール型」²のスポーツである。近代スポーツが日本に伝播した際、イギリスからはクリケット、アメリカからはベースボールがベースボール型のゲームとして、それぞれ日本で行われるようになった。明治初頭に御雇外国人として一高などで教鞭をとったストレンジ³は、「ラウンダーズとは、非常に面白く、興味深いゲームであり、冬季を除くといつでも遊戯できるものであり、特に推薦したい」⁴と述べ、*Outdoor Games* の冒頭1頁から3頁でラウンダーズを紹介している。しかしながら、ラウンダーズが日本で行われたとされる記録は見られない。これまで、日本のスポーツ史研究において、ラウンダーズは、どちらかという遊戯的なスポーツであったためか、その存在について重要視されてこなかった。野球史研究のなかで、ラウンダーズに関する指摘が若干見られるものの、それがどのようにベースボールと関係があるのかという点について詳しく述べられていない。

以上のように、現在、ラウンダーズは日本でほとんど全く行われぬ競技であるが、明

治期に多くの近代スポーツが伝播した際、ラウンダーズも同様に行われた可能性があり、その流入から消滅の過程を検討することは日本の近代スポーツ史研究において一定の意義がある。本稿では、以下のことを明らかにし、ラウンダーズ研究に着手するための一資料としたい。

- ・ラウンダーズのルールについて
- ・ベースボールとラウンダーズの関係を先行研究から明らかにすること

2-1. ラウンダーズについて

現在、ラウンダーズは、主に軽スポーツ又は子どもの遊びとして、イギリスやアイルランドでプレーされている。1947年、イギリスでナショナルラウンダーズ協会（National Rounders Association：以下 NRA）が小学校の教師たちの手によって設立され、ルールが成文化された。⁵しかし、アイルランドのラウンダーズは、GAAによって運営されており、ブリテン島とアイルランドのルールは若干異なる。⁶また、ラウンダーズはベースボール型のゲームであるが、ソフトボールやベースボールとの大きな違いは、守備側のプレイヤーによって、攻撃側のランナーにボールが当てられたら「プットアウト（put out）」になることである。そのため、ボールは柔らかくなければならない。ベースボールでは、ボールをランナーに当てることができないので、固いボールを使用することができる。ちなみに、現在のラウンダーズでも、試合の形式によっては、ベースボールのタッチアウト制を導入し、固いボールが用いられる場合がある。⁷

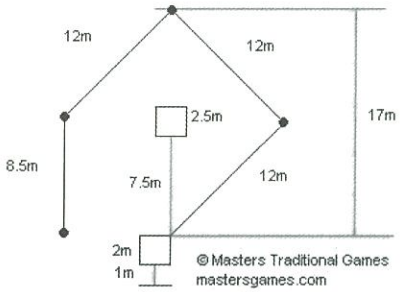
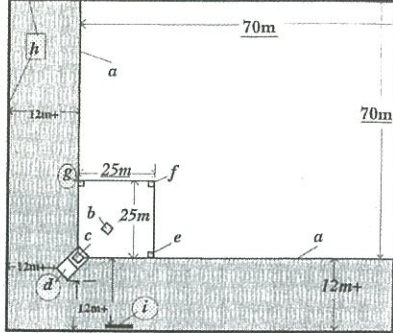
NRAは学校や余暇活動として、ラウンダーズの普及につとめ、近年、協会への加入者数が増加している。1999年まで、NRAはボランティアによって運営されていたが、現在は専門職員によって運営されている。2009年-2013年にかけてスポーツイングランドより220万ポンドの補助金を獲得している。⁸イギリスでのラウンダーズは、その専門クラブによってプレーするというよりも、町のクラブのイベントとして、或は、地域コミュニティの余暇活動としてプレーされている。

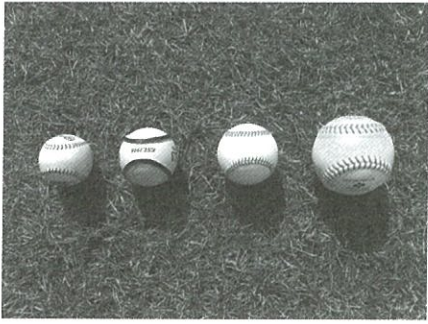
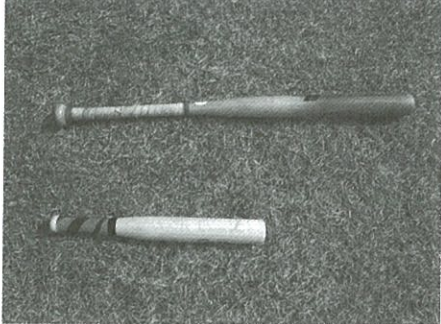
GAAはラウンダーズをハーリングやゲーリックフットボール、ハンドボールと同様、伝統スポーツの一つとして大会などを運営、組織し、普及活動を行っている。しかしながら、GAAの中心競技はハーリングとゲーリックフットボールであり、ラウンダーズの優先順位は低い。それでも、ナショナルスクール（初等教育機関）の体育の授業で行われており、ラウンダーズをプレーした経験のある人や見たことのある人は多い。

2-2. ラウンダーズのルールについて

現在、イギリスのNRAとアイルランドのGAAによって、二つの形式のラウンダーズが行われている。本稿では、これら二つのルールの概要をそれぞれの協会が発行しているルールブックから紹介する。

表. NRA と GAA のラウンダーズのルール

	NRA ルール	GAA ルール
ピッチ	<p style="text-align: center;">Rounders Pitch Layout</p>  <p>投手のための正方形が2.5メートル四方であり、7.5メートル離れて打者の正方形が2メートル四方である。そこから1メートル後方にバックストップラインを引く。図のように4つのポストを設置する。</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <ul style="list-style-type: none"> a - Foul Lines b - Pitcher's Stand c - Home Base d - Catcher's Box e - First Base <ul style="list-style-type: none"> f - Second Base g - Third Base h - Field Boundary i - Batters' Bench (foul ground is shaded) </div>  <p>ピッチは、図のように作成される。aのラインがインフィールドとアウトフィールドを分けるラインである。bがピッチャースタンド、cがホームベース、それより後ろにdのキャッチャーボックスがある。e, f, gはそれぞれ、ファーストベース、セカンドベース、サードベースである。hはフィールドの境界であり、iは打者側のベンチである。それぞれのベースは25メートル離れており、インプレーのフィールドは70メートル四方より、小さくなくてはならない。cのホームベースは64センチメートル四方の正方形であり、ホームベースを中心とした4メートル四方の正方形がバッターボックスとなる。4メートル四方の正方形で、その後ろに同じサイズのキャッチャーボックスがある。ピッチャーズスタンドはホームベースから12メートル離れた位置となる。</p>

<p>用具</p>	<p>○ボールの円周は190ミリメートルでなければならない。 ○バットは、460ミリメートルの長さを越えてはならず、直径170ミリメートル以内とする。</p>  <p>図1. 左から NRA ラウンダーズのボール、GAA ラウンダーズのボール (ハーリングのボール)、硬式野球のボール、ソフトボール；著者撮影</p>	<p>○ボールはサイズ5のハーリングのボール (シリター) を用いる。重さは98グラム以上、130グラム以下、円周は227ミリメートル以上、255ミリメートル以下とする。 ○バットは円周70ミリメートル以下とし、長さは110センチメートル以下、70センチメートル以上とする。 ○グローブの使用は認められない。</p>  <p>図2. 上がソフトボール用のバット、下が NRA ラウンダーズのバット；著者撮影</p>
<p>チーム</p>	<p>○1チームは、最大15名、最小6名とする。フィールドには一度に1チーム9名以上の選手がプレーすることはできない。 ○ミックスチームには、5名以上の男性がプレーしてはならない。 ○交代した選手が再び戻ることも可能だが、打順は最初の順番で行われる。</p>	<p>○1チーム9名以上になってはならない。 ○選手が怪我をした場合、控え選手との交代が認められる。その他の理由で選手交代は可能だが、3名以上の交代は認められない。</p>
<p>ゲーム</p>	<p>○ゲームは2イニング以上で行われる。 ○イニングの終了は全ての打者がアウトになるか、塁上にランナーはいるが次の打者がいなくなった場合である。</p>	<p>○ゲームは5イニングで構成され、1イニングは3アウトでチェンジとなる。</p>

<p>投手に関するルール</p>	<p>○下手でやさしく投げなければならない。</p> <p>○ボールは打者の膝より上、頭より下に投げ、打者の体に当ててはならない。</p> <p>○ボールが投げられた際、投手の両足はボーラーズスクウェアの中になければならない。</p> <p>○上記以外の場合、ノーボール (no ball) となる。</p>	<p>○下手で投げなければならない。</p> <p>○ボールは、ホームベース上を通過し、打者の膝より上、肩より下に投げなければならない。この条件を満たした場合、グッドボール (Good Ball)、これ以外の場合、バッドボール (Bad Ball) となる。</p>
<p>打者に関するルール</p>	<p>○打者はノーボールでないボールが投げられた場合、ボールを打たねばならず、打てなくてもファーストポストに向かって走らなければならない。</p> <p>○打たれたボールがバッティングスクウェアの後方に飛んだ場合、打者はファーストポストで止まらなければならない。</p> <p>○打者はノーボールを打とうとしても構わないし、ノーボールの際、ボールを打っても打たなくても走っても構わない。ただし、ファーストポストまで行ったら、戻ってくることはできない。もし、同じ打者に対してノーボールが2回続いた場合、打者はーフラウンダーの得点を得る。</p> <p>○打者は両手でバットを持ち、打つことができる。</p> <p>○ランナーは各ポストを2メートル以上越えた場合、前のポストに戻ることはできない。</p>	<p>○打者は3グッドボールまで打つ権利がある。</p> <p>○打者はグッドボールを打たなければならないが、打ったボール全てに対して走る必要はない。</p> <p>○打者がバッドボールと考えられるボールを打って走らなかった場合、グッドボールにカウントされる。</p> <p>○同じ打者に対して、3バッドボールとなった場合、「ウォークオン」が宣告され、打者も含めた全てのランナーが一つずつ進塁する。</p>



図3. GAA ラウンダーズの様子：GAA ラウンダーズの公式ホームページ (<http://www.gaarounders.ie>)

<p>アウトになる場合</p>	<p>○打者が打ったボールが一度も地面に落ちることなく、ボールがキャッチされた場合。</p> <p>○ポストにボールがスタンプ（守備側の選手がボールを持ってポストにタッチすること）された場合。</p> <p>○打者がポストの内側を走った場合。</p> <p>○投手がボーラーズスクウェア内にいる時、ランナーがポストから離れた場合。</p> <p>○ポストを回っている打者が前のランナーを追い越した場合。</p> <p>○投手によってボールが投げられた際、打者の足がバッターズスクウェアから出ている場合。</p> <p>○故意にバットを投げた場合。</p>	<p>○3グッドボールとなり、最後のグッドボールが地面に触れる前にキャッチャーが捕った場合。</p> <p>○3グッドボールを打ったが、そのボールがファールとなった場合。</p> <p>○打者がバットを投げた場合。</p>
<p>得点方法</p>	<p>Scoring Rounders</p> <p>○打者がボールを打つ、或は、ノーボールによって走った攻撃側の選手がフォースポストに到達した場合、ラウンダー（得点）となる。</p> <p>○打者がボールを打つのに失敗したが、フォースポストまでたどり着いた場合、ハーフラウンダーとなる。</p> <p>○打者がボールを打って、セカンドポストまでたどり着いた場合、ハーフラウンダーとなる。</p> <p>※打者がボールを打って、アウトにならずにファーストポスト、或は、セカンドポスト、サードポストに到達した場合、次のボールが打者に対してボーリングされるまで、そのポストに留まる。</p> <p>※ハーフラウンダーとなった選手がフォースポストに到達した場合、ハーフラウンダーの得点は1ラウンダーとなる。</p>	<p>○攻撃側の選手がホームベースまで戻ってきた場合。</p>  <p>図4. NRA ラウンダーズの様子：NRA 公式 Facebook (http://www.facebook.com/RoundersEngland?sk=wall#!/RoundersEngland?sk=photos)</p>

ラウンダーズに関する研究資料

二つのラウンダーズのルールを比較すると、ピッチの大きさは、GAA ルールは NRA ルールより 2 倍の大きさであり、GAA ルールはファールグラウンドがあるのに対して、NRA ルールはない。ベースは両方のルールともホームベースを含めて 4 つダイヤモンド型に設置され、その中央付近から投手の投球場所が定められている。用具は、ボール、バットとも GAA ルールは NRA より大きいものを用いる。GAA ルールで用いられるボールは、ベースボールの硬式球（円周 229 から 235 ミリメートル、重さ 141.7 から 148.8 グラム）よりやや小さい。NRA ルールのバットは GAA ルールのバットの半分程度の長さのものが用いられる。チーム構成は、両方のルールとも 9 名で構成されるが、ともに 9 名である必要はない。ただし、NRA ルールでは、最小 6 名となっている。ゲームの構成は、NRA は 2 インニング以上のゲームで、全ての打者がアウトになるまで攻撃が続くのに対して、GAA は 5 インニングで構成、3 アウトでチェンジとなる。投手の投げ方は、両方のルールとも下から投げられる。ただし、ソフトボールのようなウィンドミル投法では投げない。打者に関するルールは、NRA ルールの場合、打てなくてもファーストに向かって走ることが認められている。GAA ルールの場合、打ったボール全てに対して走る義務がない。打球の飛距離を見て、ファーストに向かって走るかどうかが選択できる。得点方法は、NRA のルールでは、ノーボールが 2 回続いた場合、また、セカンドまで到達した場合、「ハーフラウンダー」という「1 ラウンダー」の半分の価値のポイントが与えられる。以上のように、NRA と GAA のラウンダーズは同じ名称だが、異なるゲームであり、GAA ルールはソフトボールに似ている。

... Red Team... versus ... White Team... ... 1st. innings of ... Red Team...					
BATTING ORDER	BATSMAN	SCORE	HOW OUT	BOWLER	TOTAL
1	J. Knight	HH·R·HH	Caught	D Smith	1
2	K Lambert	HR·H·HHHRHH	Stumped	L Coutts	2
3	W Shott	RR·RH·H·HH·RH	Caught	L Coutts	4
4	A Brown	...·HHR·...½RH·	Bounced out	L Coutts	2½
5	D Small	HRHHH·	Stumped	S Jones	1
6	J Rodwood	½H·½RH	Stumped	D Smith	2
7	R Blake	·HHHRHRHR·	Run out	L Coutts	3
8	B Way	·HHHR½RHRRH	Bounced out	L Coutts	4½
9	K Williams	H	Caught	R Wood	0
TWO CONSECUTIVE NO-BALLS:		½	OBSTRUCTION:		½
KEY: R = Rounder H = Ball hit * = Ball missed					TOTAL: 21

図 5. NRA ラウンダーズのスコアシート (NRA, Rounders-know the game-, 3rd ed. A&C Black, 1988, p. 31)

3. ベースボールの祖先としてのラウンダーズ

3-1. ベースボールの起源に関する議論

現在行われているベースボールを近代的な形に作り上げたのは、アメリカの功績であろう。しかし、その原型となったスポーツは諸説あり、イングランドで行われていたラウンダーズが移民によりアメリカに持ち込まれた説もその一つである。ここでは、ベースボールの起源としてのラウンダーズのほか、ベースボールの起源に関する代表的な議論について整理する。

1850年代にニューヨークで、ベースボールの記者として活躍したイギリス出身のチャドウィック (Henry Chadwick) は、自身がアメリカに移民する前にデボン (Devon)⁹でプレーした経験から、ベースボールはイングランドのラウンダーズが由来であると1860年のベースボール年鑑に書いた。チャドウィックの説に対して、ランキン (William M. Rankin) は1886年に、アメリカで広く行われているベースボールとイングランドのゲームであるラウンダーズにいくつか大きな違いがあることを指摘した。ただし、ランキンはベースボールがどこから、どのように誕生したのかという点について全く述べていない。この2年後、ワード (John Montgomery Ward) は *Base-ball: How to Become a Player* という本で、ベースボールがアメリカの発明であることを主張した。彼はベースボールとラウンダーズを詳細に比較検討し、ベースボールがラウンダーズの子孫である理由がなく、むしろベースボールは、初期のアメリカで行われていた「キャットボール (cat-ball)」が進化したものだと結論づけた。彼はまた、「全ての良いものや美しいものが、イングランド起源だ」と考えるチャドウィックや彼の賛同者たちを批判した。1888年10月、ワードや他のプロフェッショナルの選手はベースボールを普及するためにワールドツアーを行った。これは、かつてシカゴ・ホワイトソックスのスターピッチャーで、巨大な成功をおさめたスポーツ用品会社の共同創立者であるスパルディング (Albert Spalding) によって行われた。このツアーは、ハワイ、ニュージーランド、オーストラリア、セイロン、エジプト、イタリア、フランス、イングランドを回った。このツアーを観戦した多くの観衆は、ベースボールがラウンダーズによく似た競技だと感想を述べていた。¹⁰

20世紀の初頭、アメリカはスペインとの戦争に勝利し、国民意識が高まっていた。ベースボールは国のシンボルとしてプレーされていた。チャドウィックは、この時期に再びペンを取り、ベースボールの起源がイギリスであることを主張した。スパルディングは、以前、チャドウィックの説に賛同していたが、ベースボールの世界ツアー以降、考えを変えた。彼は、ベースボールがアメリカ起源のスポーツであることを人々に伝えるキャンペーンを行い、ワードの初期のアメリカで行われていたキャットボールがベースボールに発展したという説を支持した。皮肉なことにこのキャットボールはイングランド起源のゲームである。いずれにしても、スパルディングは、キャットボールからタウンボール、そして

ベースボールへと発展したと考えていた。このチャドウィックとスパルディングの対立は、スポーツ紙の販売を促進するほど、人々の関心を集めていた。¹¹

1905年4月3日、コロラド州出身の鉱山技師であるグレイブズ (Abner Graves) が、オハイオ州の地方紙 *Bacon Journal* で、スパルディングの「ベースボールゲームの起源」と題された記事を読んだ。グレイブズは、*Bacon Journal* の編集者宛てに、アメリカのゲームである「Base Ball (ママ)」は、ニューヨークのクーパーズタウンのダブルデイ (Abner Doubleday) によって発明されたという主旨の手紙を書いた。グレイブズは、かつてクーパーズタウンで行われていた「タウンボール」とベースボールがごちゃ混ぜになっていたようである。ダブルデイが発明したゲームは、一チーム11人で、守備側の選手は決まったポジションにつくこと、そして、4つの平らな石をベースにして行うことを定め、このゲームを「ベースボール」と呼んだ。ホームベースに戻ってくると得点となることや、守備側の選手にボールを当てられたらアウトになるというルールであり、グレイブズは手紙に「ベースボールは疑いようもなく、ニューヨークのクーパーズタウン生まれのゲームであり、ダブルデイが発明したものである」と書いた。スパルディングはこの説を歓迎し、すぐに自身が設立した「ベースボール起源調査委員会 (Special Base Ball Commission)」に調査を依頼した。同委員会は、1908年3月に報告書を提出し、ダブルデイがニューヨークのクーパーズタウンで1839年の春にベースボールを発明したと認定した。ただし、この説を証明するものは何もなく、手紙を出したグレイブズも71歳で、ダブルデイがベースボールを発明したのも、1839年か1840年、あるいは1841年かと記憶も曖昧だった。しかし、委員会はそれを1839年と定め発表し、ベースボールは公式に「アメリカ起源」とされた。¹²

ダブルデイの説に対する批判は多くあった。ニューヨーク図書館 (New York Public Library) に勤務し、ニューヨーク・ラケット・テニスクラブ (New York Racket and Tennis Club) の学芸員であったヘンダーソン (Robert W. Henderson) は、ダブルデイの説が完全なでっち上げだということを *Bulletin of the New York Library* に寄稿した。彼の根拠は、1834年にボストンで出版された、カーヴァー (Robin Carver) の *The Book of Spots* に掲載されていた「ベース・ゴールボール (Base or Goal Ball)」のルールの概要やダイヤモンド型のインフィールドが、クラーク (William Clarke) が1828年にロンドンで出版した *The Boy's Own Book* に掲載されているラウンダーズのコピーだったからである。また、ヘンダーソンは、ダブルデイ自身が生前、ベースボールのことを全く語っていなかったことも指摘した。¹³

ボールとバット、ベースを使ったゲームは、イギリスから伝わったラウンダーズやクリケットがその基になったと断言することはできない。しかし、イギリスでは、アメリカでベースボールが生まれる以前から、そういったゲームが行われていた。現在のベースボールにとって決定的な出来事は、ニューヨークのニッカーボッカーベースボールクラブのカートライト (Alexander J. Cartwright) が1845年にルールを成文化したことであろう。こ

のルールが今日の近代的なベースボールの基となる。¹⁴

3-2. 日本の野球史研究にみるラウンダーズの記述

日本の野球史研究において、ベースボールの起源に関する実証的な研究はなく、アメリカの研究者の文献から引用されている。鈴木¹⁵はベースボールの起源について、その起源が「イギリスのクリケットから起こったものだとか、ラウンダーズが変化したものだとか」¹⁶と、多説あることを指摘しながらもおそらくクリケットが起源であるとしている。その理由として、同じようなボールを用いること、両競技のバットが類似している点、ベースボールの投手、捕手及び打者の関係がクリケットのボーラー、ウィケットキーパー及びバッターの関係に似ている点、試合の服装が似ている点などをあげている。鈴木は競技形態からクリケットが起源と結論づけているが、競技形態が同じラウンダーズとの比較は行っていない。佐山は、アメリカのタウンミーティングの際に行われたラウンダーズが、タウンボールと呼ばれていたことを指摘し、このタウンボールがやがてベースボールへと変化していったと述べている。¹⁷

吉村¹⁸は、ソフトボールの歴史を叙述する中で、ラウンダーズについて言及している。ベースボールは東京開成学校（明治6～10年）と開拓使仮学校（明治5～8年）で、アメリカ人教師が日本に伝えたとする説について、この時期に伝来したベースボールが今日の野球ではなく、むしろ当時イギリスから伝来したラウンダーズや、アメリカで行われていたソフトボールに近い形式だったのでは、と推測している。また、ラウンダーズがイギリス人教師により、紹介された可能性を示唆している。イギリス人が指導していた代表的な学校として、海軍兵学校（明治2年開校）と工学寮（明治4年開校）があげられる。吉村は、海軍兵学校でベースボールが、明治の初年に遊戯されたという説に対して、海軍兵学校の教師のほとんどがイギリス人であったことから、クリケットやラウンダーズが行われた¹⁹と考えるほうが妥当であると述べている。竹之下²⁰や川村²¹は、ソフトボールが工学寮で明治7年に行われたことを指摘しているが、これに対しても吉村は、ラウンダーズがイギリス人教師の指導の下に遊戯されることはあっても、アメリカで創作されたソフトボールを指導するとは考えられないと批判している。さらに、「ソフトボール」という名称自体が、1926年に初めて用いられたものであることから、それ以前にソフトボールがプレーされ得ないと指摘し、工学寮で行われたソフトボールは、ラウンダーズであった可能性が高いことを指摘している。

吉村は、明治期のラウンダーズとベースボールの規則とその関連性を述べるために、ストレンジが1883年に書いた *Outdoor Games* 中にあるラウンダーズの規則を要約し、紹介している。本稿では、当時のルールから特徴的なものを以下に紹介する。

ラウンダーズの規則

競技場：5個のベース（大きな石でも可）を16ヤードごとに離して、五角形のそれ

ぞれの角に置く。

用具：バットは約2フィートの長さのもの、ボールは適度な大きさのものを用いる。

選手：1チーム、5名以上10名以内とする。

その他規則：

- ①フィーダー（投手）は、ホームベースにたっているインプレイヤー（打者）に、ボールを下手から投げる。
- ②アウトプレイヤー（守備側の選手）がインプレイヤー（攻撃側の選手：走者）にボールを投げ当てたとき、アウトになる。
- ③インプレイヤーが、ベース間にいるときに、ボールがキャッチャーに返され、キャッチャーがホームベースをタッチしたとき、アウトになる。

浦岡は、日本へのベースボールの伝来について、その競技方法は「現在のソフトボールを想像すると大体間違いない」²²と述べており、ラウンダーズに非常によく似た形式で行われている。

4. おわりに

以上のように、本稿ではラウンダーズ研究に着手する事前資料として、イギリスのNRA及びアイルランドのGAAによって行われているラウンダーズのルールを紹介し、ベースボールのラウンダーズ起源説及び日本の野球史研究におけるラウンダーズの記述を整理した。19世紀にイギリスでは、遊戯としてラウンダーズが行われ、アメリカへの移民はラウンダーズからタウンボール、そして現在のようなベースボールを生み出した。日本にも、明治期にはイギリスから多くの御雇外国人がクリケットやサッカー、ラグビーなどイギリス生まれのスポーツを持ち込み、学生たちに指導していた。吉村は、日本で行われた初期のベースボールが実はラウンダーズであった可能性を指摘している。ベースボールに比べ、競技性よりも遊戯性の要素が高いラウンダーズは、明治初期に日本で行われたものの、同じベースボール型の競技である「野球」に取って代わられた可能性がある。本稿はラウンダーズ研究に着手する事前資料として、競技の整理及び歴史的な認識を概観した。クリケットを含めた日本におけるベースボール型競技史研究の中で、日本におけるラウンダーズの実態を明らかにすることが今後の課題である。

附記：本稿は岡山愛里、進藤美玖による星稜女子短期大学の卒業研究、「野球とラウンダーズの関連について」の一部を榎本が加筆修正を加え、研究資料としてまとめたものである。

-
- ¹ 本研究では、ベースボールという一般的な競技を指す場合、‘ベースボール’と表記し、日本のベースボールに限定する場合、‘野球’と表記する。
- ² 平成20年度の新学習指導要領より、攻守を交代して行うソフトボールなどの球技に対してベースボール型と分類している。
- ³ 阿部生雄『近代スポーツマンシップの誕生と成長』筑波大学出版会、2009、pp. 257-264
- ⁴ W. F. Strange, *Outdoor Games*, 1886；吉村正「明治時代におけるソフトボール（ベース・ボール）の歴史的研究」早稲田大学体育研究紀要第15号、1983、p. 45
- ⁵ NRA（ナショナルラウンダーズ協会）公式ホームページ（www.roundersengland.co.uk）2011年10月31日閲覧、ただし、NRAが1988年に出版した *Rounders-know the game*-では、協会の設立が1947年となっている。本稿では、どちらもNRAによる発表であることから、新しい記述のほうを用いた。
- ⁶ Nigel Viney and Neil Grant, *An Illustrated History of Ball Games*, Book Club Association, 1978, p. 98
- ⁷ *ibid.*, p. 98
- ⁸ NRA 公式ホームページ（www.roundersengland.co.uk）
- ⁹ イングランドの南西部、コーンウォール半島の中部、カウンティ・デヴォン（County of Devon）。
- ¹⁰ Julian Norridge, *Can We Have Our Balls Back, Please? -How the British Invented Sport*, Penguin Books, 2008, p. 256, 257
- ¹¹ *ibid.*, p. 259, 260
- ¹² *ibid.*, p. 261, 262
- ¹³ *ibid.*, 2008, p. 265
- ¹⁴ Robert W. Henderson, Foreword by Leonard Koppett, *Ball, Bat and Bishop -The Origin of Ball Games*, Illinois University Press, 2001, p. 162, 163；ヘンダーソンは1947年に本書を出版している。
- ¹⁵ 鈴木惣太郎『アメリカ野球史』ベースボールマガジン社、1966
- ¹⁶ 同上書、p. 13
- ¹⁷ 佐山和夫『野球とシェイクスピア』論創社、2007、pp. 13-21
- ¹⁸ 吉村正、前掲書、1983
- ¹⁹ 同上書、p. 44
- ²⁰ 竹之下休蔵『体育五十年』時事通信社、1950
- ²¹ 川村英男『日本体育史』逍遙書院、1972
- ²² 浦岡偉太郎『野球史』日本野球史刊行会、1956、p. 1